







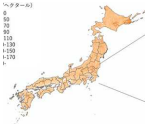



## 令和7年度農業試験場で実施している研究等一覧

### 【栽培部】

研究テーマ（実施年度）	研究概要
<b>競争力アップ技術開発</b> ①夏季高温に対応したイチゴ「まりひめ」の花芽分化遅延防止技術の確立 (R7～9)	 育苗期と定植後のステージに応じた低コスト高温対策技術と適正な栄養管理手法を確立する。 ・温度条件、株の栄養状態と花芽分化の関係解明 ・低コスト高温対策技術の確立 ・高温条件下における栄養管理方法の確立
<b>競争力アップ技術開発</b> ②イチゴ「まりひめ」高品質・多収に向けた環境制御時の効率的な養水分管理技術開発 (R5～7)	 品質の安定化と増収を両立するため、植物体の要求量に応じた適正な養水分管理技術を開発する。 ・適正な日射比例式給液技術の確立 ・生育ステージ別の適正な給排水EC管理技術の開発
<b>基礎研究</b> ③次世代の野菜・花きの新品種素材の育成 (R3～7 継続)	 良食味で炭疽病に強いイチゴや、茎葉が強固で秀品率が高いスプレーグクを育種するための優良な育種素材や系統を作出する ・炭疽病耐病性、高品質、多収なイチゴ優良系統 ・茎葉が強固で花持ちが良い夏秋型スプレーグクの優良系統
④水稲奨励品種決定調査 (R6～8 継続)	 高温登熟性に優れる高品質・良食味品種を選定する ・県奨励品種決定のための特性調査 ・新奨励品種の栽培試験 ・原原種、原種の維持更新
<b>競争的資金事業</b> ⑤初冬から早春まで「いつでも直播」: 春の作業ピークを平準化できる革新的稲策技術 (R6～10)	 温暖地域での作型を開発する。 ・11月～5月 播種時期の確立 ・施肥管理、除草体系等栽培管理技術の検証

### 【環境部】

<b>競争力アップ技術開発</b> ⑥イチゴ「まりひめ」の炭疽病対策 (R5～7)	 イチゴ「まりひめ」の効果的な炭疽病防除技術として、病原菌感染リスクが低い親株育成方法を確立する。 ・病原菌感染リスク評価に基づく親株育成時期 ・感染リスクの低い時期における親株の栽培管理手法の確立 ・薬剤による効果的な感染予防方法の確立
<b>競争力アップ技術開発</b> ⑦低コストかつ持続可能なショウガ施肥体系の確立 (R6～8)	 プラスチックを使用しない緩効性肥料と有機質資材を配合した、安価で価格変動の少ない肥料による施肥体系を確立する。 ・養分吸収特性に適合する配合肥料の開発 ・新肥料を用いた施肥体系の確立と実証
<b>消費・安全対策交付金</b> ⑧特産農作物病害虫防除 (R4～6 継続)	 本県の基幹農作物の安定生産と安全性を確保するために必要な病害虫防除技術を開発する。 ・薬剤抵抗性病害虫の発生状況調査の手法確立 ・農業に頼れない難防除病害虫の管理手法の確立
<b>農作物病害虫防除所: 植物防疫事業交付金</b> ⑨病害虫発生予察・発生状況調査 (R6～8 継続)	 病害虫発生予察情報を提供するとともに、早急防除が必要な場合は警報・注意報を、新規病害虫発生の場合は特殊報を発表する。 ・病害虫の発生動向調査 ・病害虫の診断同定
<b>農林水産省委託事業</b> ⑩農地土壌炭素貯留等基礎調査事業 (R5～8 全国調査)	 農地土壌をCO2の吸収源として利用することにより、温室効果ガス削減を図る。 ・県内農耕地の炭素貯留量調査 ・有機物連用による土壌炭素貯留効果
<b>農林水産省委託事業</b> ⑪国内資源の肥料利用拡大に向けた調査 (地力調査) (R6～9 全国調査)	 土壌の性質に応じた、肥料の利用ポテンシャルを明らかにする。 ・県内農耕地の地力調査